

第52回司法制度研究集会のご案内

「司法の危機」が叫ばれた時代から今に至るまでの50年余にわたって、市民と法律家は、憲法を敵視する行政権と対峙し、この政策に手を貸し度とする司法、とりわけ最高裁判所とたたかってきました。しかし、いまだ司法は、被害者の被害回復や少数者の権利擁護、あるいは憲法秩序の回復のための真の機関とはなれていません。むしろ、近時の安倍・菅・岸田政権によって、憲法秩序と人権保障の軽視は逆に進行しているともいえます。

そこで、裁判所の現状を知り、課題を明確化するため、今回の司法制度研究集会では、全国各地の裁判所でたたかわれている代表的な訴訟について、その経過と判決を比較検討して、何が勝敗を分け、どのように裁判所を変えれば勝訴判決となるのかについて検討することとします。

取り上げる4事件は、「原発訴訟」、「安保法制違憲訴訟」、「生活保護引下げ訴訟」、「『結婚の自由をすべての人に』訴訟」です。これらの訴訟は全国各地で取り組まれており、弁護士・原告団の横の連携がなされているにもかかわらず、どうして一方で勝訴、他方で敗訴という結論の違いが生じているのか、あるいは敗訴ばかりが続くのか、判決のみならず、訴訟指揮についても注目してみたいと思います。また、今回は、会場から事件報告と問題提起を多数していただき、各地のたたかひの経験を共有したいと考えています。

こうした事件報告を踏まえて、司法と裁判運動の現在と将来について討議し、また、最高裁判官の任命制度の現状と改革を展望したいと思います。

裁判と法律運動から日本社会の変革を展望する集会とするため、ぜひ多くの方にご参加いただきたいと思ひます。共に考えていきましょう。

参加申込み方法

- ◆ メールに、氏名・連絡先・参加方法 (zoomまたは主婦会館) を明記のうえ、info@jdla.jp (日民協本部事務局) までお送りください。
- ※ zoom参加の方には、集会前日に参加用URLとレジュメ等をお送りします。
- ◆ 右のQRコード、もしくは、<https://forms.gle/TjBkLHWgX9GVprWz6> からもお申し込みができます。



会場案内

JR四ツ谷駅 麹町口前
主婦会館プラザエフ

至 麹町 上智大学
スクワール 麹町
W.C.
イガナチオ 教会
駅前 ローターリー
至 御茶ノ水 双葉学園
JR 四ツ谷駅
新宿通り
至 新宿
至 新宿 外堀通り
地下鉄 丸の内線 南北線 四ツ谷駅

〒102-0085
東京都千代田区六番町15番地
TEL 03-3265-8111
FAX 03-3265-8581
E-mail front@plaza-f.or.jp
URL www.plaza-f.or.jp

- JR (中央線) 四ツ谷駅麹町口より徒歩1分
- 地下鉄 (丸の内線・南北線) 四ツ谷駅から徒歩2分
- 専用駐車場の収容台数には限りがあります

<お問合せ先>

日本民主法律家協会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-14-4 AMビル2F
TEL 03-5367-5430 FAX 03-5367-5431
Mail info@jdla.jp HP <http://www.jdla.jp/>

勝訴・敗訴判決から学ぶ 裁判所の構造的な問題

日時 2022年11月23日(水・祝) 午後1時から午後5時
場所 オンラインおよび主婦会館プラザエフ8階会議室スイセン
参加費 オンライン参加・無料
主婦会館・1000円(学生・院生・修習生500円) ※コピー付

主催
日本民主法律家協会

共催
自由法曹団
青年法律家協会弁護士学者合同部会

協賛
全司法労働組合

第52回司法制度研究集会

「勝訴・敗訴判決から学ぶ裁判所の構造的な問題」

プログラム

12:30 開場/オンライン受付開始

第1部 勝訴・敗訴判決から学ぶ 司法制度の課題

13:00 開会あいさつ

新屋達之 氏

(福岡大教授・日民協司法制度委員会委員長)

13:05 各事件の報告

① 原発訴訟

*報告者調整中

② 安保法制違憲訴訟

伊須慎一郎 氏

(弁護士・安保法制違憲訴訟埼玉弁護団事務局長)

③ 生活保護引下げ訴訟

小久保哲郎 氏

(弁護士・生活保護引下げ訴訟副団長)

④ 「結婚の自由を すべての人に」訴訟

永野 靖 氏

(弁護士・同訴訟・東京訴訟弁護団)

14:05 ～休憩10分～

第2部 司法の問題点をどのように改革していくか

14:15 基調報告Ⅰ

「司法と裁判運動の 現在とこれから」

大久保史郎 氏 (立命館大名譽教授)



1943年生まれ。1972年香川大学教育学部助手・同講師、立命館大学法学部助教授、教授を経て、現在にいたる。著書に『人権主体としての個と集団』(日本評論社、2005年)、共編著『現代日本の司法』(日本評論社・2020年)、同『日本の最高裁判所』(日本評論社・2015年)など。

14:35 基調報告Ⅱ

「最高裁判官任命制度の 現状から改革を考える」

西川伸一 氏 (明治大教授)



1961年生まれ。明治大学政治経済学部教授。専攻は政治学。日民協・国民審査プロジェクトチーム。著書に『増補改訂版 裁判官幹部人事の研究「経歴的資源」を手がかりとして』(五月書房新社、2020年)、『最高裁判官国民審査の実証的研究』(五月書房、2012年)など。

14:50 ～休憩10分～

15:00 パネルディスカッション・会場発言

これまでの報告者

コーディネーター: 笹山尚人 氏 (弁護士・青法協議長)

- あらためて「勝利した力、負けた理由」について
裁判官は何を考えていたのか?
- 裁判運動の役割(人権、立憲主義、民主主義)
- 司法改革の課題と目的
「行政裁判所」からの脱皮、人権保障・実質的三権分立の実現のための司法官僚制打破、最高裁判事の任命・国民審査の改革、法曹一元、陪・参審制の導入
- 裁判と法律運動から
日本社会の変革を展望する

16:50 まとめ

豊川義明 氏 (弁護士)

17:00 終了予定